◇イベント報告◇

2025 年米国会計学会（AAA）年次大会参加報告

ASBJ 委員長兼 SSBJ 委員長　川西 安喜
SSBJ 常勤委員　山口 奈美

1. はじめに

米国会計学会（American Accounting Association; AAA）の年次大会が、2025 年 8 月 4 日から 6 日にかけて米国シカゴで対面形式で開催された。企業会計基準委員会（ASBJ）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）からは、筆者が参加した。

2. 年次大会の概要

AAA 会長の Audrey A. Gramling 氏（オクラホマ州立大学）により開会の挨拶が行われた後、Plenary session 及び参加するセッションを各参加者が選択する Concurrent session が開催された。

以下、参加したセッションの一部の概要をご報告する。文中、意見にわたる部分は、私見であることをあらかじめ申し添える。

3. 参加した主なセッション

（1） Plenary sessions

① Opening Plenary Session

「『The Accounting Review』の 100 年から得られた洞察」と題して、Michelle Hanlon 氏（マサチューセッツ工科大学）、Eva Labro 氏（ノースカロライナ大学チャペルヒル校）、Mark W. Nelson 氏（コーネル大学）及び Richard Sloan 氏（南カリフォルニア大学）4 名の Keynote speaker が登壇した。講演では、税務、会計、財務報告、監査等のそれぞれのテーマに応じた今後の研究課題に関する洞察が提供された。

② Accounting Hall of Frame 及び Award Presentation

2 日目の全体セッションでは、「Accounting Hall of Fame Induction」と題して、殿堂入りを果たした 4 名の功績を紹介し、4 名又は関係者のそれぞれが記念スピーチを行った。その後、AAA 及び協賛団体が主催する各種の賞の受賞者が発表され、そのうち Outstanding Accounting Educator Award の受賞者 2 名、及び 2025 年の Presidential Scholar を受賞した 2 名が記念スピーチを行った。

③ AAA の次期会長の発表

3 日目の全体セッションでは、2 日目に引き続き AAA 及び協賛団体が主催する各種の賞の受賞者が発表された後、退任する取締役会及び評議員会の議長の紹介と表彰が行われた。また、次期 AAA 会長に Mark S. Beasley 氏（ノースカロライナ州立大学）が就任することが発表され、「Innovating for a New Generation」と題した講演を行った。講演では、環境が急速に変化する状況を踏まえて、どのように生徒を教育し、研究を進め、学界に奉仕するかについて、立ち止まり、振り返り、考え直す必要があるとし、最近の学生が求めているものに触れながら、改革のために必要な要素についての洞察が提供された。

（２） Concurrent sessions

① IASB のアジェンダ・コンサルテーションに対する各国基準設定主体の洞察（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Eric Lee 氏（オーストラリア会計基準審議会（AASB））、パネリストとして川西 ASBJ 委員長が登壇した。他のパネリストは、Katharine Christopoulos 氏（カナダ会計基準審議会（AcSB））、Han Yi 氏（韓国会計基準委員会（KASB））、Zach Gast 氏（国際会計基準審議会（IASB））及び Ana Simpson 氏（IASB）であった。

本セッションでは、IASB が今後行う予定であるとされるアジェンダ・コンサルテーションについて、まず、IASB から説明がなされた後、各パネリストから、各法域における IASB のアジェンダ・コンサルテーションの重要性や、各法域においてどのようにアジェンダ・コンサルテーションについて対応していく予定であるのかについての説明がなされた。

② FASB/IASB/SEC からのアップート（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Daniel Wangerin 氏（ウィスコンシン大学）、パネリストは、Gaurav Hiranandani 氏（米国証券取引委員会（SEC））、Christine Botosan 氏（米国財務会計基準審議会（FASB）理事）及び Linda Mezon-Hutter 氏（IASB 副議長）であった。

本セッションでは、FASB 及び IASB の理事並びに SEC の主任会計官室の代表者が登壇し、最近公表した会計基準、基準設定プロジェクト及び SEC の動向に関するアップデートが提供された。

IASB からは、最近公表した会計基準及び現在開発中のアジェンダ、並びに IASB のアジェンダ協議に関する議論の見通しなどについての説明がなされた。また、IASB が学術研究の結果をどのように収集し、どのように利用しているかについて説明がなされ、学術研究が基準開発に寄与していることが強調された。

FASB からは、最近公表した会計基準及び現在開発中のアジェンダ、並びに FASB 議長が設定したリサーチ・アジェンダとして、財務KPI及びアジェンダ協議に関する情報要請が行われたことなどが説明された。2026 年から 2027 年にかけて FASB の 7 名のボードメンバーのうち 3 名が交代予定であることも説明された。さらに、FASB における学術研究の利用及び学識経験者の関与に関連して、博士課程修了研究員の関与や新進研究者賞（Emerging Scholar Award）の表彰、リサーチ・シンポジウムの開催などについても紹介された。

SEC からは、SEC の主任会計官室（OCA）の新しい体制について触れた上で、新体制での優先事項の 1 つとして暗号資産に関する明確が規制の提供があることについて説明がなされた。また、OCA が実施しているコンサルテーションを受ける場合の留意事項や、最近コンサルテーションが寄せられている論点のトレンドについても説明がなされた。

③　IFRS の適用から 20 年：規制当局及び基準設定主体の視点（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Manuela Danta 氏（カリフォルニア州立大学ノースリッジ校）、パネリストは、Holger Erchinger 氏（KPMG）及び Linda Mezon-Hutter 氏（IASB 副議長）であった。

本セッションでは、IFRS が欧州はじめ広く適用されるようになってからの 20 年をパネリストが振り返った。

米国証券取引委員会（SEC）が外国登録企業（FPI）の定義を見直すことを提案しており、これまで FPI として IFRS に基づく財務諸表の提出が認められていた企業が米国基準に基づく財務諸表の提出が求められる可能性があることが紹介され、IFRS と米国基準のコンバージェンスに向けた作業を再開すべきであるとの意見等が述べられた。

④　企業結合会計の新しい視点（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Christine Botosan 氏（FASB 理事）、パネリストは、Marina Gidalevich 氏（PwC）及び Stephen Penman 氏（コロンビア大学）であった。

本セッションでは、Botosan 氏及び Penman 氏のそれぞれから、企業結合に関する新しい会計モデルの提案がなされた。

⑤　キャッシュ・フロー情報に関する、財務報告上発生している問題のリサーチ・シンポジウム（抄）（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Christine Botosan 氏（FASB 理事）、パネリストは、Derek Christensen 氏（オレゴン大学）、Zach Gast 氏（IASB 理事）、Scott Taub 氏（財務報告アドバイザーズ LLC）及び Shannon Garavaglia 氏（ピッツバーグ大学）であった。

本セッションでは、2025 年 4 月に開催された、財務報告上発生している問題のリサーチ・シンポジウムの内容が紹介された。

⑥　影響のある研究（パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Joseph Comprix 氏（シラキュース大学）、パネリストは、Eva Labro 氏（ノースカロライナ大学チャペルヒル校）、Jeffrey Hales 氏（テキサス大学オースティン校）、Patricia Dechow 氏（南カリフォルニア大学）及び Vaughan Radcliffe 氏（ウェスタン大学）であった。

本セッションでは、会計に関する研究の結果が実務に与える影響が、他分野の研究と比べて小さいと言われていることについて、どのような改善が考えられるかについてディスカッションが行われた。

⑦　国際税制

本セッションでは、2 つの論文について議論された。

そのうちの 1 つでは、所得税がない法域や低税率の法域であっても、「タックス・ヘイブン」として用いられる場合とそうでない場合があることが紹介された。また、「タックス・ヘイブン」と言われている法域とそれ以外の法域を比較する研究では、先行研究の影響を強く受けており、必ずしも適切な区分となっていない可能性があることが紹介された。

⑧　ESG 開示

本セッションでは、2 つの論文について議論された。

そのうちの 1 つでは、台湾の国立陽明交通大学管理学院の代表者から、台湾の上場企

業による2014年から2022年のESG分野別サステナビリティ報告書4,273件を分析し、その読みやすさ（readability）と銀行の貸出スプレッドの関係を検証した結果が発表された。分析の結果、環境・社会分野の報告書はいずれも読みやすいほど貸出スプレッドが有意に低くなる結果が得られた一方、ESG 関連の実績との関係では、銀行の貸出スプレッドを低下させる効果がより弱いことが示される結果となったことが紹介された。

⑨　外部による精査と排出量

本セッションでは、2つの論文について議論された。

そのうちの1つでは、ドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン＝ニュルンベルクの代表者から、企業の排出削減目標の詳細度（分解開示か集約開示か）が投資家の信頼性（credibility）に与える影響についての架空企業を用いた実証研究の結果が発表された。調査の結果、分解された開示の方が信頼性が高く評価され、その傾向は、サステナビリティ報告の全体的な評価が低い企業において特に顕著であったことが紹介された。

⑩　人工知能（AI）と事業のサステナビリティ：影響を生むための戦略 （パネル・セッション）

本セッションのモデレーターは、Zabihollah Rezaee 氏（メンフィス大学）、パネリストは、Salem Boumediene 氏及び Salma Boumediene 氏（いずれもイリノイ大学スプリングフィールド校）であった。

本セッションでは、AI の使用によって、どのようにサステナビリティ関連の取り組み、財務又は非財務KPIの報告及び分析が促進されるかについての議論が行われ、各パネリストより、AI を使用した ESG レポートの分析などに関するデモンストレーションが提供された。また、AI の活用場面として、太陽光発電の発電量に影響する天候予測、エネルギー需要予測、農業分野における水管理、廃棄物の管理、交通渋滞の予測等の例が紹介された。

参加者からは、マシーンラーニングさせた AI からのアウトプットの正確性の確認方法について質問があり、責任ある AI（Responsible AI）の取組みの重要性が高まっていることなどが説明された。また、他の参加者からは、ディープラーニングには読み込ませる膨大なデータが必要であり、データへのアクセスについては小規模な企業により不利な状況となりやすいといった見解が示された。

⑪　サステナビリティ情報開示と価格設定

本セッションでは、３つの論文について議論された。

そのうちの１つでは、台湾の国立成功大学の代表者から、TCFD 提言に対する支持を表明した銀行が、投資先の環境関連の実績を融資判断に反映しているかどうかについて、2015 年から 2022 年までの米国における銀行のデータを分析した結果が発表された。分析の結果、TCFD 提言への支持を表明した銀行と表明していない銀行との間で、環境関連の実績が優れている企業に対する金利設定に有意な差はみられず、両者ともが相応に低い金利を適用していることがわかったが紹介された。発表者は、TCFD の役割自体は IFRS 財団に継承されたことで終了しているが、この研究によって、銀行が掲げた環境関連の目標と実際の融資行動との間にギャップがあることを示しているとした。

4. 結びにかえて

2026 年の AAA 年次大会は、8 月にラスベガスで開催される予定であることが発表されている。

以　上